

2017年3月31日

日本の保護犬猫の未来を考えるネットワーク 御中

認定特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たちの活動について3月15日付で質問状をいただきましたので、お返事をまとめました。3月は、私たちの活動にとっても大変繁忙期にあたり、ひとつでも命を無駄に失わせないために、スタッフ、ボランティアの方たちが昼夜を問わず、全力で保護、譲渡の活動に取り組んでおります。その中で、これだけの多岐(6ページ)にわたる質問状への文書回答を2週間で作成せよと求められるというのは、正直大変な負担で、肝心の保護活動にも影響が生じかねません。同じ動物福祉を志す団体として、その点をご配慮いただけますと幸いに存じます。また、私たちの施設は見学の受け入れを随時行っております。本回答がご理解に役立ちますことを祈念します。

私たちは、広島県、そして全国で犬や猫の殺処分が継続してなくなる状況を必ず実現する覚悟です。そのために現在、4万平方メートル以上の保護犬の収容用地に約2000平方メートルの犬舎施設を建て、3カ所の譲渡センターを運営するなど、専任スタッフ約50人体制で事業を展開しています。今後も多くの支援者のみなさまの共感を得て、人道援助分野での20余年の活動経験も生かしながら、犬猫を取り巻く社会の意識や仕組みの変革に挑戦します。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

質問1

この内容については、ホームページの「よくある質問(Q&A)」の「PWJの取り組みについて」に掲載しておりますので、そちらをご覧ください。 <http://peace-wanko.jp/faq.html>

質問2

災害による建物の倒壊などで、犬や猫が飼い主の管理から離れてしまう可能性については、保護シェルターに限らず、ペットショップ、動物愛護センター、一般家庭などを含む全ての犬猫において同じリスクがあります。私たちの広島県神石高原町の保護施設は、現在犬のみを収容していますが、これまでの災害支援の経験を踏まえ、地盤が強固でかつ高地にあり、地

震、津波、大規模噴火、水害、土砂災害等のリスクが総合的に非常に低いと判断した場所に設置しております。建物も平屋で屋根を軽くするなど、地震に強い構造にするよう心がけています。

また、私たちは災害時の支援活動の一環で、被災地の犬猫の保護施設への支援や、たとえば熊本では飼い主が犬や猫と一緒に寝泊まりできる避難所を設置・運営するなどの取り組みも行っています。こうした活動を通じ、災害時の犬猫の繁殖や殺処分の抑制に貢献することにも努めています。

質問3

1. 私たちは、保護犬の里親になっていただいてから1年以上経過したご家庭を対象に、保護犬との暮らしの満足度、繁殖の有無、自治体への登録やワクチン接種の状況などのフォローアップ調査をしています。4月末までの回答を集計し、結果を5月にホームページで公表する予定です。

2. 繁殖期については、雄犬の反応や雌犬の発情期のカレンダー管理等を複合的に行っております。雄犬も性格によって繁殖期の雌に対する反応が違います。その反応によって、神石高原町にある隔離室や一次預かりのご家庭に雄犬や雌犬を移動させるなどの対応をしています。

3. 譲渡先の飼い主が飼いきれないという状況が生じた場合、私たちが再度引き取るということが可能です。

質問4

私たちが直接放浪犬や野犬を捕獲する活動は行っておりません。広島県の動物愛護センターが野犬の捕獲を行っています。方法等については県にお尋ねください。

質問5

ご質問の趣旨が不明瞭ですが、ピースワンコ・ジャパンプロジェクトが発足して以来、HP 及びパンフレット、その他あらゆる機会を通じて、ピースワンコ・ジャパンプロジェクトの運営主体は認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンであることを明示し、公開しています。

ピースワンコ・ジャパンプロジェクトへのご寄付は、犬の殺処分ゼロの活動や災害救助犬の育成等に活用させていただいており、そのことも明示しています。ピースワンコ・ジャパンを別法人にするという考えは、現時点ではありません。

数字について

1.2. 私たちは年度でなく暦年で頭数を管理しています。年別の保護数、譲渡・返還数はホームページの「よくある質問(Q&A)」の「PWJ の取り組みについて」をご覧ください。自治体からの引き取り数については、各自治体にお尋ねください。

3. 過去に私たちが行った保護犬の不妊去勢手術数は、2014 年度 1 頭(雌)、2015 年度3頭(雄 1、雌 2)、2016 年度 6 頭(雄 1、雌 5)、2017 年度 2 頭(雌 2)です。飼い主による手術については、上記調査の中で確認中です。

4. 3月27日現在、私たちの施設にいる保護犬の総数は1166頭、うち不妊去勢手術済みは27頭です。

5. 9. 私たちが保護した時点で妊娠していた犬は23頭、仔犬の出生数は150頭(死産を含む)です。仔犬の数は上記の保護頭数に含まれます。

6. 広島県にご照会ください。

7. 3名が勤務しています。

8. ホームページの「よくある質問(Q&A)」の「PWJ の取り組みについて」をご覧ください。

私たちは、日本から殺処分がなくなり、ペットと人間の真の共生が実現する社会を必ず作り出していく所存です。長期的に日本において殺処分ゼロを継続させるためには、飼い主と動物に関わる仕事をしている人たち全ての意識を変えていくことが必要です。私たちは、猫の繁殖制限については不妊去勢手術を第一優先にしていますし、犬についても個体の状況によって不妊去勢手術が必要な場合には行います。

もちろん私たちも完璧ではありません。人間の集合体の行うことですので、ミスも生じますし、まだまだ改善させ、進化させなければならない取り組みもあると思っています。しかし、そこで立ち止まっていたら、殺処分ゼロは永遠に実現しません。とにかく殺処分にあう犬を救うために行動すること、飼い主や動物に関わる仕事をする人たちの意識を変えていくこと、多くの人や組織を巻き込み、社会全体の意識変化と参加を得て殺処分がない社会を生み出すことに、チャレンジし続けたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具